

各界で活躍している OB・OGからのメッセージ

01 検事

小原 彩那



マニュアルでは絶対に処理できないような仕事ばかり。
だからこそやりがいを感じるし、探求心をもって何事にも食らいつく
という想いを胸に、楽しみながら日々の仕事に取り組んでいます。

仲間とともに切磋琢磨し、支え合った日々。
至れり尽くせりの万全な環境で勉強に取り組む。

私は大学の頃から刑事ドラマや推理小説が好きでした。そこから“捜査”というものに魅力を感じ、検察官になりたいと思ったことがロースクール受験のきっかけでした。

その中でも関学ロースクールは、修了生による多彩な学習サポート、少人数学習の徹底、手厚い奨学金制度など、自分にとって最適な環境が整っていました。

関学ロースクールには皆で支え合い、切磋琢磨して合格を目指す風土があります。目的意識の高い学生同士で刺激しあいながら、授業やグループ学習に取り組むことができました。勉強漬けの毎日でしたが、定期試験後に友人と打ち上げに行き、朝方まで飲み明かしたことも良い思い出です。私が1回目の司法試験で不合格となり意気消沈していた時も、友人が励ましてくれたおかげで“もう一度がんばろう”と思え、最終的に合格することができました。私にとって仲間の存在はとても大きなものでした。

その後司法修習生になり、検察修習で初めて取調べを経験した際「これまで分かっていた事実を、被疑者に話を聞くことで知ることができる、そしてそこから新たな事実が分かる。」といった一連の流れを学びました。この経験を通して“捜査”というものに大きなやりがいを感じ、検察官を志望しようと改めて決意しました。

検察官の仕事の中心は、被疑者・被害者・参考人といった事件の関係者から話を聞くことです。事件によって問題点は異なるので、その点を意識して関係者から話を聞くこととなります。それぞれ立場が違えば事件についての見方も異なるため、相手の考えを汲んで形にする必要があります。マニュアルでは絶対に処理できない仕事だからこそ、やりがいを感じています。

Profile 志学館大学法学部卒業
2012年 4月 関西学院大学法科大学院(既修)入学
2014年 3月 関西学院大学法科大学院修了
2015年 9月 新司法試験合格
2016年 12月 検事任官、大阪地検検事
2018年 4月 広島地検検事

02 弁護士

青木 良和 かけはし法律事務所勤務



今の業務の根幹をなすのはロースクールでの学び。
2年間で学んだ知識と経験をフル活用して、
困っている人の力になれるよう、日々努力しています。

関学ロースクールで学んだ2年間で、
なくてはならない弁護士の「いろは」を学びました。

弁護士という職業に対する憧れと「自由」というイメージから、弁護士を目指すようになりました。
周りの友人が就職活動をしている中、自分一人だけ進学という道を選択しているということに不安はありましたが、学生時代を過ごした馴染みある場所で勉強を続けたいという思いから関学ロースクールを選択。奨学金などの金銭的サポートが充実している点も魅力です。

在学中は色々試行錯誤しながら勉強したことを覚えています。一人で勉強することも多かったのですが、力を貸してくれる友人や先生方に恵まれ、充実したロースクール生活を送ることができました。依頼者の抱える問題をどのように法律分野の内容に落とし込んでいくか、情報の集め方や調査の手順など、ロースクールで学んだ知識やスキルが日々の仕事の根幹になっています。

私が仕事をするうえで一番やりがいを感じるのは、「困っている人の力になれる」という点にあります。我々の元に来る人たちはトラブルに巻き込まれていたり、悩み事を抱えていたりする 경우가多数。そのような人の力となり、元の生活を取り戻せた時の安堵や喜びの表情を見たと、弁護士になってよかったと実感します。現在はその一環として企業を相手とする消費者問題に取り組んでいます。目の前の依頼者の力となるばかりでなく、社会に良い影響を与えられるきっかけを作り出したいです。

Profile 関西学院大学法学部卒業
2015年 4月 関西学院大学法科大学院(既修)入学
2017年 3月 関西学院大学法科大学院修了
2017年 9月 司法試験合格

03 企業法務

荒川 真里 弁護士・株式会社SCREENホールディングス勤務



グループ企業の法務を担う環境で、
社会の実情を学ぶ日々。
案件から学ぶことは多く、興味は尽きません。

今の自分を支えているのはロースクールで
仲の良い友人と一緒に学んだことです。

学部生時代に早期卒業や手厚い奨学金制度があることを知り、通い慣れた関西学院のロースクールに進むことを決意。先生方の対応が細やかで、学習環境も整っていると感じた点も入学を決めたポイントです。

少人数で取り組める土曜ゼミは、気心の知れた友人たちと自分の得意分野を教え合ったり、気になる部分や突っ込んで聞けたり、一緒に楽しみながら学ぶことができました。一度目の試験では惜しくも合格点に届かなかったため、二度目の試験に臨む際は、苦手な科目を克服する等の改善を試みました。そのために土曜ゼミの通信添削をフル活用し、「書く力」を強化。卒業後の勉強は孤独でしたが先生や先輩方から暖かい励ましの言葉をいただき、無事試験に合格することができました。

修了後はすぐに法律事務所勤務するよりも、まず社会の仕組みや企業法務の実務を勉強しておきたいと思ったため、一般企業の法務部門で勤務することに。民法や商法、労働法などロースクールで学んだ知識を活かしながら奮闘する日々ですが、企業法務と一口に言っても扱う案件の幅は広く、例えば独禁法や知財法の知識が必要となることもあり、さらなる勉強に励んでいこうと思っています。海外取引も多いので、英語力の強化や国際取引に関する知識を身につけることもこれからの課題です。将来的には様々な法律の知識を活かしてさらに活躍したいと考えています。

Profile 関西学院大学法学部卒業
2012年 4月 関西学院大学法科大学院(未修)入学
2015年 3月 関西学院大学法科大学院修了
2016年 9月 司法試験合格

04 公務員

加藤 梨恵 神戸市役所勤務



「法の趣旨に立ち返ること」。
この言葉の大切さを日々実感しながら、
法に詳しい職員として行政に携わっています。

授業の質問から悩みの相談まで。
真っすぐ向き合ってくれた先生方と充実のサポート体制。

関学ロースクールへの入学を決めたのは、学習のサポート体制が整っていると知ったからです。実際にオフィス・アワーでは授業での質問をはじめ、勉強の進め方などさまざまな悩みを聞いていただきました。どの先生方も親身になってくれたことが、印象に残っています。

現在は、地元神戸の行財政局で市税に関する業務を行っています。課税の決定や市税の滞納処分などについて不服申し立てがあった場合、まず窓口となるのが私たちです。話し合いを重ね、訴訟に至った時は税の実務に関わる者として裁判にも参加します。ロースクール時代に行政法など税に関する勉強はしていましたが、訴訟までの経緯など判例だけでは見えてなかった面も実務を通じて勉強する毎日です。

また、ほかの課から法に関する質問を受けることもあります。その時に大切にしているのが“法の趣旨”に立ち返って考えること。法令の条文は全ての場面に適用できるとは限らず、具体的な場面に適用するにはその条文の基にある考えまで掘り下げて検討する必要があります。この時、ロースクールで学んだ知識が活かされていることを実感します。

行政の仕事は、法律に基づいて行われていることがたくさんあり、法律を適切に解釈、運用していく必要があります。今後もさまざまな経験を積み、幅広い知識を身につけていきたいです。

Profile 大阪市立大学法学部卒業
2010年 4月 関西学院大学法科大学院(未修)入学
2013年 3月 関西学院大学法科大学院修了